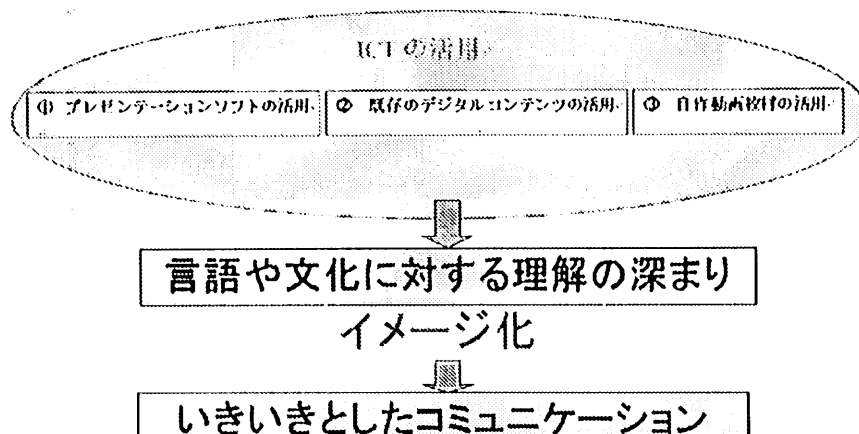


児童がいきいきとコミュニケーションを図る外国語活動の研究 －ICTの活用を通して－

I 研究の概要

小学校外国語活動において、児童がいきいきとコミュニケーションを図る態度を育成するために、ICTを活用法を探る。児童が「相手の言っていることがわかった」「自分が英語で言ったことが伝わった」と英語に慣れ親しみ、コミュニケーションへの興味・関心を高める活動の在り方を研究していく。



II 成果と課題

プレゼンテーションソフトを使い、事物の写真やイラストなどを大画面に映すことは児童が新しい言葉を覚えるときの理解の補助となり、音声と言葉の意味を結びつけるのに役立つ。

NHK 学校放送は、外国語が使われている「場面」や「働き」のイメージをもたせるには有効な手段であった。着せ替えのデジタルコンテンツは児童の興味を喚起させ、楽しい外国語活動を行わせるのに効果的だった。

本研究の大きな成果として、自作動画教材を活用した個別学習が挙げられる。新しい言葉を覚えるとき、どうしても児童の理解に個人差が発生してしまう。そういった面を補うために、全体での学びの中に、個の学びの機会である自作動画教材を使用した。自作動画教材によって、児童は ALT の発表をモデルとして、自分のペースで必要なところを反復学習することができ、言語に対する理解を深めることができた。

一見相反するもののように思われる ICT と実際のコミュニケーションではあるが、特に導入段階に ICT を活用することは、児童の学習に対する興味・関心を高め、児童の言葉に対する理解を高めた。それをベースに必然性のあるコミュニケーション活動を行うことによって、児童は ALT や友達の言っていることが「わかった」英語で言ったことが「伝わった」と、いきいきコミュニケーションを楽しむことができた。

今後は、外国語学習の情報、コンテンツ、教材などに関して指導者が情報交換できる Web 上の情報共有サイトの必要性を感じるので研究を行いたい。(塩山南小 神宮司 剛)